

## 本年度における肝炎ウイルスフォローアップに向けての取り組み

研究分担者：石上 雅敏 名古屋大学医学部附属病院 消化器内科

**研究要旨**：平成14年から老人保健事業、平成20年からは健康増進事業等で、自治体主導の（基本/特定）健診時に行われる肝炎ウイルス検診等の取り組みが行われるようになった。平成23年度より本研究班の分担研究者として、愛知県豊橋市保健所の協力を得て、地方自治体単位での効率的な肝炎ウイルス健診陽性者に対する効率的なフォローアップシステム構築を検討してきた。

3年間の本班研究においては井上（貴）研究員を中心として愛知県全体での実情把握調査を行っており、これらの結果から特に分担研究員の担当である豊橋市の現況、および現在フォローアップシステムの対象にはなっていないものの、重要な受検機会である妊婦健診陽性者の現状も調査した。

### A. 研究目的

平成14年から老人保健事業、平成20年からは健康増進事業等で、自治体主導の（基本/特定）健診時に行われる肝炎ウイルス検診等の取り組みが行われるようになった。分担研究者は平成23年度より本研究班の分担研究者として、愛知県豊橋市保健所の協力を得て、地方自治体単位での効率的な肝炎ウイルス健診陽性者に対する効率的なフォローアップシステム構築を検討してきた。

平成25年度にアンケートを行った際にアンケート回収率が全体の39.3%(24/61)と低率であり、特に男性(28.0%)および40代以下の女性(25.0%)で低率であり、若年層における問題意識の低さが浮き彫りになってきた。

本班研究では井上（貴）研究員が中心となり、愛知県の各市町村、および管轄保健所にフォローアップの現状調査を行っている。その現状報告と、今後の愛知県におけるフォローアップの方策について、分担研究員の担当である豊橋市を中心に述べてみる。

### B. 研究方法

自治体においては分担研究者の担当である豊橋市を含めて、井上（貴）研究員が中心となり、愛知県におけるフォローアップ

の現況を調査している。そこへの協力の取り組みについて報告する。

### C. 研究結果

豊橋市においては健康増進課(健康増進法に基づく市町村担当部署)における平成27,28年度の陽性者12名のうち、6名の受検者、また健康対策課(特定保健法に基づく希望者健診の担当部署)では10名中9名で現状が把握できており、これら陽性者のうち、6名が治療に、また4名が無治療も経過観察中であり、現況のフォローアップシステムが豊橋市では有効に働いているということを報告してきた。

また、平成29年度からは井上（貴）研究員が中心となり、県内各管轄保健所にアンケートを送付、フォローアップの現況について調査を行った。豊橋市においては、320名の受検者のうち新たな感染者はなし、HCVについては315名の受検者のうち1名(0.3%)が陽性で、この陽性者にも新たにフォローアップ同意が得られていることがわかった。

またこれとは別に、現在のフォローアップシステムの対象にはなっていないものの、重要な受検機会である妊婦健診における陽性者の現状も調査してみた。

実際に平成22年度から27年度の6年間で毎年3,500名程度が健診を受けており、その中で陽性者が20名前後見つかったことも判明している。うち、平成28年8月1日現在で豊橋市に在住している陽性者16名にアンケートを送付した所、回答率は9/16(56.3%)、うち受診率は6/9(66.7%)であり、自治体の他の健診陽性者とほぼ同等の数字であった。

#### D. 考察

従来から人口37万人の中規模都市である豊橋市において調査を行っており、厚労省のフォローアップシステムが開始されてからは比較的良好に運用されていることがわかっている。愛知県は人口7,543,384人という大都市圏であり、かつ54の市町村、12の管轄保健所(政令指定市を除く)と非常に多く、また各市町村における温度差も見られることも明らかとなっており、愛知県全体で見ると、例えば各自治体でのフォローアップに割くことが可能な人員の不足から、きちんとまだ体制が構築されていない自治体もあるなど、まだ課題が山積していることがはっきりしてきた。

また今回の班研究においては、現在フォローアップシステムの対象外となっている妊婦健診の現状も調査してみた。妊婦健診の場合はほぼ強制、という違いはあるものの、自治体健診と比べて健診数で約3倍以上、陽性者も2倍程度はいることがわかった。来年度以降に国が妊婦健診もフォローアップの対象とすることになることも鑑み、これらの層をいかにフォローアップに乗せるかも大きな課題であろう。

#### E. 結論

自治体肝炎ウイルス健診の実情を把握するために、本研究班では愛知県豊橋市での実情を調査した。現在国で進めているフォローアップシステムは概ね良好に働いている印象はあるが、それでも全てをカバ

ーしきれているわけではなく、今後も課題は残っていると考えられる。また、妊婦健診はある意味、かなり陽性者を見つけるための有効なツールの一つであり、今後フォローアップシステムがこれらの群にも適用されるにあたり、有効な手段を講じることが大事であろう。

#### F. 政策提言および実務活動

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」(H29-R1)および、「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築」(H26-H28)研究班の分担研究者として研究活動を行い、その中で実際に自治体での現状把握として、保健所設置市である愛知県豊橋市でのウイルス陽性者把握の現状につき調査を行った。

自治体におけるフォローアップシステム現状の把握、また、現在フォローアップシステムに乗っていない妊婦健診での現状を調査、さらなるフォローアップシステムの有効性向上のための問題点を明らかにした。

#### G. 研究発表

1. 発表論文  
なし
2. 学会発表  
なし
3. その他  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし